

日本語学会第165回大会 報告

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
博士前期課程1年
松山芳瑛

1

報告内容

大会概要

口頭発表

- ・木下 蒼一朗「ここじゃ雨なんか降らない—現代ロシア語の否定生格に見る視点と存在の認知的関係—」
- ・吉田 樹生、石川 さくら「体言化理論における文法関係と概念表示: インド・アーリア諸語の用言基盤体言化から」

2

大会概要

- ・日時: 2022年11月12日(土)~13日(日)
- ・会場: オンライン
- ・1日目
 - ・口頭発表 43件
 - ・ポスター発表 5件
- ・2日目
 - ・ワークショップ 2件: 「レキシコンの輪郭: 派生の領域とインターフェイス」、「クロス再考: 実践が支える言語観、言語観が導く実践」
 - ・公開シンポジウム: 「琉球における言語継承活動の現状と課題」
- ・次回予定
 - ・日時: 2023年6月17日(土)~18日(日)
 - ・会場: 専修大学

3

ここじゃ雨なんか降らない—現代ロシア語の否定生格に見る視点と存在の認知的関係—

ロシア語否定存在文において主語の否定生格が容認される場合とされない場合がある理由について、これまで「情報構造説」、「非対格説」、「視点構造説」が考案されてきた。本発表では「視点構造説」に認知的説明を加えることでその理論的飛躍を克服できることを主張する。

4

現代ロシア語における否定生格

否定生格とは

- ・動詞が否定された時、自動詞文の主格主語・他動詞文の対格目的語が生格(属格)に交代する現象

5

現代ロシア語における否定生格

主格主語—否定生格

(3) a. Otv'ët iz pólk-a n'e pr'iš-él. (Babby 1980: 71)
answer-M.SG.NOM from regiment-M.SG.GEN NEG arrive-3.SG.M.PAST
「連隊からのその返答はまだ到着していない」

b. Otv'ët-a iz pólk-a n'e pr'iš-l-o.
answer-M.SG.GEN from regiment-M.SG.GEN NEG arrive-3.SG.N.PAST
「連隊からは何の返答もなかった」

対格目的語—否定生格

(4) a. Anna n'e kup'i-la žurnál. (Harves 2013: 1)
Anna-NOM NEG buy-3.SG.F.PAST magazine-M.SG.ACC
「アンナはその雑誌を買わなかった」

b. Anna n'e kup'i-la žurnál-a.
Anna-NOM NEG buy-3.SG.F.PAST magazine-M.SG.GEN
「アンナは雑誌なんて買わなかった」

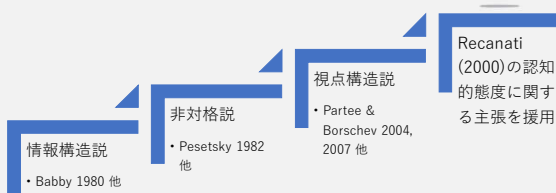
6

現代ロシア語における否定生格

- なぜ否定生格が容認される時とされない時があるのか？
- 「存在コミットメント」による説明(Chvany 1975等)
 - 当該名詞句の指示対象が存在する、ということを発話の前提としているか否か
 - 否定生格を使用した文が発せられる時、具体的な対象は念頭に置かれていない=存在コミットメントの不在

7

研究史



8

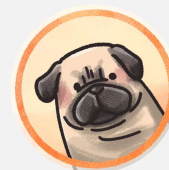
情報構造説

- Babby (1980)
- 述部のみがレーマ(Negated Declarative Sentence)
- 文全体がレーマ(Negated Existential Sentence)
- 否定生格は文全体がレーマになっている時(NES)に生じる

9

情報構造説

- 問題点
- レーマ主語が否定生格になることも
- (6) (犬が話題になっているときに)
- Sobák** u m'en'á n'et. (Arutjunova 1976)
 dog-F.SG.GEN at I-GEN be-NEG
 「犬は飼ってないよ」



10

非対格説

- Pesetsky (1982)、Harves (2002a, b)他
 - 否定生格が現れるのは、動詞が非対格動詞の時
- (他動詞目的語が主語になっている自動詞、通常非意図)

11

非対格説の問題点

- 非能格動詞の主語が否定生格になることも
- (9) V bas's'ejn'-e n'ikakógo r'ebénk-a n'e pláva-et.
 in pool-M.SG.LOC no-M.SG.GEN child-M.SG.GEN NEG [float/*swim]-3.SG.PRS
 「プールには子供は一人も [浮かんで / *泳いで] いない」
- (11) Zd'es' n'ikogdá n'e dožd'-ej. (McGrady 2022: 6)
 here never NEG go-3.N.SG.PAST rain-M.PL.GEN
 「ここじゃ雨なんか降らない(これまで一度も降ってこなかった)」

swim > float, go > rain
 一時的な意志性の漂白、非対格動詞化

?

12

視点構造説

- Borschev & Partee (2002a), Partee & Borschev (2004, 2007)他
- 否定生格容認の是非は話し手の「視点の中心」の違いに依拠すると主張

(12) a. **P'ět'a** na koncěrt'-e n'ě byl.
 Petja-NOM at concert-M.SG.LOC NEG be-M.SG.PAST
 「ペーチャはコンサートに行かなかったよ」
 b. **?P'ět'a** na koncěrt'-e n'ě bylo.
 Petja-GEN at concert-M.SG.LOC NEG be-N.SG.PAST
 「ペーチャはコンサートに来てなかったよ」
 (13) —Koncěrt'-a n'ě bylo.
 concert-M.SG.GEN NEG be-N.SG.PAST.
 「(だって)コンサートなんてなかった(から)」

発話者が実際にコンサートに行って確認した、というニュアンス
 ↓
 a, bの違いは視点構造のレベル

13

視点構造説

- 視点構造の構築順序
 - THING(存在者)→LOC(位置)
 - LOC→THING
- NES: LOCを視点の中心とし、そこにおけるTHINGの存在を否定 (LOC→THING)

14

視点構造説

(9) **V bas's'ejn'-e** n'ikakógo r'eběnk-a n'ě pláva-et.
 in pool-M.SG.LOC no-M.SG.GEN child-M.SG.GEN NEG [float/*swim]-3.SG.PRS
 「プールには子供は一人も [浮かんで / *泳いで] いない」
 (11) **Zd'es** n'ikogdá n'ě š-l-o dožd'-ěj.
 here never NEG go-3.N.SG.PAST rain-M.PL.GEN
 「ここじゃ雨なんか降らない(これまで一度も降ってこなかった)」

場所句の前置によって視点の中心がLOCに移る

15

視点構造説

- 「存在する」という事象は非意図的
 ↓
- NESは本来的に無人称性を持つ
 ↓
- 非能格動詞の意志性の意味を漂白
 ↓
- 一時的に非対格性を獲得
 ↓
- 否定生格の容認

16

視点構造説の問題点

通常、移動動詞によって天候を表す文で否定生格は容認されない(16)が、場所句を有標な形で表す場合は容認される(11)。

(16) N'ě š-l-o [*dožd'-á / *dožd'-ěj].
 NEG go-3.SG.N.PAST rain-M.SG.GEN rain-M.PL.GEN
 「雨なんか降ってなかった」を意図
 (11) **Zd'es** n'ikogdá n'ě š-l-o dožd'-ěj. (McGrady 2022)
 here never NEG go-3.N.SG.PAST rain-M.PL.GEN
 「ここじゃ雨なんか降らない(これまで一度も降ってこなかった)」

17

視点構造説の問題点

- 天候を表す移動動詞表現の視点の中心はTHINGがデフォルト
 ↓
- 場所句の有標な表示により視点の中心がLOCへ移動
 ↓
- 文がNESとして解釈される
 ↓
- 無人称性を獲得、一時的にVが非対格動詞に
 ↓?
- 指示対象の存在コミットメントが削除されることには直接つながらない…

18

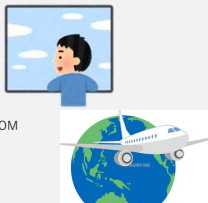
認知的態度

Recanati (2000)

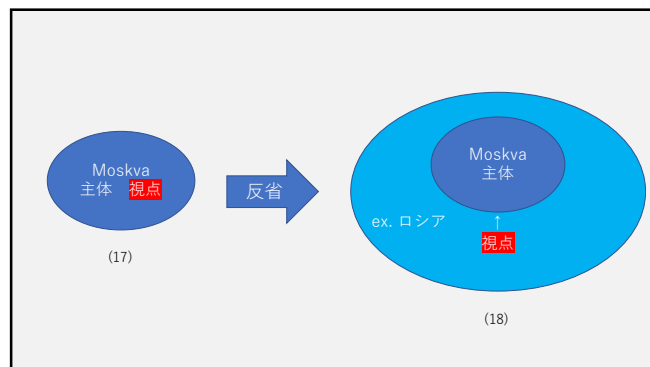
- 状況を表象する発話/思考における場所句の明示と認知的態度の関係

(17) id'-ét dožd'.
go-3.SG.PRS.IMPF rain-M.SG.NOM
「雨が降っている」
= 目の前の降雨現象を指す、視点は内部に

(18) [Zd'es' /V Moskv'-e] id'ét dožd'.
[here /in Moscow-LOC] go-3.SG.PRS.IMPF rain-M.SG.NOM
「[ここで/モスクワで]雨が降っている」
= 発話/思考がなされた場所も含む、外部からの視点
(他の都市との比較が可能)



19



20

認知的態度

(11, 18)の視点の中心がLOCであることと「反省」的態度はどのような関わりがあるか？

- “存在=相対的”原理 (Partee & Borschev 2004, 2007, 他)
…LOCがないとTHINGは存在できない
- 存在の意味をデフォルトで持たない動詞の文が「存在に関わる」には、話し手の「場所を対象に含んだ反省的思考」が必要
- 場所句の前置は「反省」的態度を促す手段の1つ

21

質疑応答(一部)

- (所有表現をbe/have型に二分した場合)ロシア語はbe型言語でありかつ無人称文を多用することから、主体が表示されない表現が多いと捉えられる。それゆえ状況に没入するという認知的解釈が重要になってくるのか？
• ロシア語内の他の表現との比較対照も必要。
- 生格は所有も表せるということで、所有表現もヒントになる可能性がある。
- 今後この分野の研究ではどのようなデータを見ると良いか？
• 話し手の心的態度と構文の関係を調べたいため、会話・SNS等における練られていない文を調べてることが重要だと考えている。
- 「反省」された文は遺憾の意を含むか？
• 母語話者によると含まないと思われる。

22

報告者の視点から

- 他動詞目的語の否定生格における様相とは関係づけが可能か？

Timberlake, A. (1975). Hierarchies in the genitive of negation. *Slavic and East European Journal*, 123-138.

ロシア語の目的語否定生格における傾向

- 不可算/不活動体/複数形名詞
- 否定が強調された名詞句
- 不完了体動詞
- フォーマルな文体
…etc. の時に否定生格が好まれる

23

体言化理論における文法関係と概念表示: インド・アーリア諸語の用言基盤体言化から

体言化理論に基づきインド・アーリア諸語(NIA)に属する4言語における体言化を分析する。先行研究の記述を修正すると同時に、NIAの体言化はアスペクトごとに異なる、意味役割に基づいた含意階層を設定できることを示す。そしてその階層は「視点」の概念を導入することでメタファー・メトニミーの考え方によって説明できることを主張する。

24

体言化理論(Shibatani 2019)

- 体言化
 - 用言基盤体言化(ex. employ-er)
 - 体言基盤体言化(ex. John's ジョンのもの)
- 従来「関係節」とされてきたものを、用言を基盤とする体言化構造の1つとして捉え直す
- 名詞句用法と修飾用法の2つの用法を持つ
 - ex. [whom you love]は名詞句になることも、別の名詞句を修飾することもできる

25

先行研究

ベンガル語

- 名詞句接近可能性階層 {SUB > ~~OO~~ > ~~IX~~ > ~~OB~~ > GEN > COMP}
 - ある名詞句を関係節化できるなら、より上位の全ての名詞句も関係節化できる
 - NIAの関係節は反例となる
- ネパール語体言化では、名詞句用法と修飾用法で表される文法関係が異なる
 - 名詞句用法では主語のみだが、修飾用法では制限なし

26

表1:先行研究のまとめ(加筆)

言語	用法	S	A	P	T	R
ヒンディー・ウルドゥー語(未完了)	名詞句用法	○				
	修飾用法	○				
ヒンディー・ウルドゥー語(完了)	名詞句用法	○		○	○	
	修飾用法	○	○	○	○	×
ネパール語(未完了)	名詞句用法	○	○	×	×	
	修飾用法	○	○	○	○	○
ネパール語(完了)	名詞句用法	○	○	○	○	
	修飾用法	○	○	○	○	○
ベンガル語	名詞句用法					
	修飾用法	○	○	○	○	×
シンハラ語(過去、非過去)	名詞句用法					
	修飾用法	○	○	○	○	○

27

問題提起


- ① 非文とされているNIAの関係節化は、統語論的に非文法的なのか、語用論的に不適切なのか？
- ② NIA関係節の名詞句用法に関する先行研究は少ないが、ネパール語以外の言語でも名詞句用法と修飾用法で表し得る文法関係が異なるのか？
- ③ NIAの体言化傾向を一般化できないか？

28

調査

- 対象言語：インド・ヨーロッパ語族インド・アーリア諸語(NIA)に属する4言語
 - ネパール語、ヒンディー・ウルドゥー語…Inner Indo-Aryan
 - シンハラ語、ベンガル語…Outer Indo-Aryan
- S(subject)、A(gent)、P(atient)、T(heme)、R(ecipient)の意味役割とテンス・アスペクトに着目
 - NIAは形態統語的能格性を示すのでSとAを分ける必要がある
- 各意味役割に該当する体言化の容認度を文脈を提示して母語話者に質問

詳細(質疑応答に基づく)：
日本在住の母語話者への聞き取り調査
ネパール語・ベンガル語・シンハラ語…各1名
ヒンディー・ウルドゥー語…2名



29

調査結果

表 2. 調査結果: 未完了・非過去の体言化における含意的階層性

言語	S	A	P	T	R
Hindi-Urdu	OK	NO	NO	NO	NO
Early Nepali	OK	OK	NO	NO	NO
Nepali	OK	OK	OK	OK	OK
Bengali	OK	OK	OK	OK	OK
Sinhala	OK	OK	OK	OK	OK

表 3. 調査結果: 完了・過去の体言化における含意的階層性

言語	P	T	S	A	R
Early Nepali	OK	OK	OK	NO	NO
Hindi-Urdu	OK	OK	OK	OK	NO
Nepali	OK	OK	OK	OK	OK
Bengali	OK	OK	OK	OK	OK
Sinhala	OK	OK	OK	OK	OK

- ① 先行研究では非文とされてきたにも関わらず、文脈によっては容認されるものがある
 - ネパール語P・T、ベンガル語R
 - 先行研究における文法性と容認性の混同
- ② 4言語における体言化は全て名詞句用法と修飾用法に使用可能である
 - 体言化が2つの用法を持つという体言化理論を支持
- ③ アスペクトごとに異なる意味役割の含意階層が観察される

30

議論

ネパール語P・T

(5) [brazil-le dherai jit-ne] khej futbol ho tara
 Brazil-ERG much win-NMLZR game football be.PRS.3 but
 [Astreliya-le jit-ne] kriket ho.
 Australia-ERG win-NMLZR cricket be.PRS.3
 'The game which Brazil wins is football, but the one which Australia wins is cricket.'

(6) [mai-le us=lai di-ne] kura=haru tyo koṭha=ma thie
 1SG-ERG 3SG=DAT give-NMLZR thing=PL that room=in be.PST.3
 ra [mai-le tapai=lai di-ne]=haru yo koṭha=ma thie.
 and 1SG-ERG 2SG=DAT give-NMLZR=PL this room=in be.PST.3
 'The things which I will give to her were in that room, and the ones which I will give to you were in this room.'

31

議論

ベンガル語R

(7) [mohila-r khelna de-wa] bacca=ti ajal-e amar bhai
 lady-GEN toy give-NMLZR child=CLF actual-LOC 1SG.GEN brother
 [tobe mohila-r mifti de-wa]=ti-ke ami cin-i na.
 but lady-GEN sweet give-NMLZR=CLF-DAT 1SG.NOM know-1 NEG
 'The child to whom the lady gave a toy is actually my brother, but I do not know the one to whom the woman gave a sweet.'

32

調査結果

表 2. 調査結果: 未完了・非過去の体言化における含意的階層性

言語	S	A	P	T	R
Hindi-Urdu	OK	NO	NO	NO	NO
Early Nepali	OK	OK	NO	NO	NO
Nepali	OK	OK	OK	OK	OK
Bengali	OK	OK	OK	OK	OK
Sinhala	OK	OK	OK	OK	OK

表 3. 調査結果: 完了・過去の体言化における含意的階層性

言語	P	T	S	A	R
Early Nepali	OK	OK	OK	NO	NO
Hindi-Urdu	OK	OK	OK	OK	NO
Nepali	OK	OK	OK	OK	OK
Bengali	OK	OK	OK	OK	OK
Sinhala	OK	OK	OK	OK	OK

- ① 先行研究では非文とされてきたにも関わらず、文脈によっては容認されるものがある
 - ・ ネパール語P・T、ベンガル語R
 - ・ 先行研究における文法性と容認性の混同
- ② 4言語における体言化は全て名詞句用法と修飾用法に使用可能である
 - ・ 体言化が2つの用法を持つという体言化理論を支持
- ③ アスペクトごとに異なる意味役割の含意階層が観察される

33

調査結果

表 2. 調査結果: 未完了・非過去の体言化における含意的階層性

言語	S	A	P	T	R
Hindi-Urdu	OK	NO	NO	NO	NO
Early Nepali	OK	OK	NO	NO	NO
Nepali	OK	OK	OK	OK	OK
Bengali	OK	OK	OK	OK	OK
Sinhala	OK	OK	OK	OK	OK

表 3. 調査結果: 完了・過去の体言化における含意的階層性

言語	P	T	S	A	R
Early Nepali	OK	OK	OK	NO	NO
Hindi-Urdu	OK	OK	OK	OK	NO
Nepali	OK	OK	OK	OK	OK
Bengali	OK	OK	OK	OK	OK
Sinhala	OK	OK	OK	OK	OK

- ① 先行研究では非文とされてきたにも関わらず、文脈によっては容認されるものがある
 - ・ ネパール語P・T、ベンガル語R
 - ・ 先行研究における文法性と容認性の混同
- ② 4言語における体言化は全て名詞句用法と修飾用法に使用可能である
 - ・ 体言化が2つの用法を持つという体言化理論を支持
- ③ アスペクトごとに異なる意味役割の含意階層が観察される

34

議論

③ アスペクトごとに異なる意味役割の含意階層

- ・ 従来の主語 {S, A} (Keenan & Comrie 1977)、絶対格 {S, P} (Fox 1987)を最上位とする階層は当てはまらない
- ・ 完了: {P, T, S} > {A} > {R}
- ・ 未完了: {S} > {A} > {P, T, R}

視点(DeLancey 1981, 1982)の概念を導入することで、メタファーによって2つの階層を説明できる

35

DeLancey 1982

・ それぞれの事象には以下の方向性があり、いずれも始点または終点に視点がある

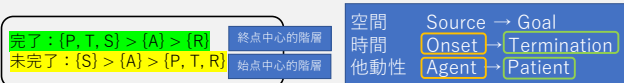
空間	Source	→	Goal
時間	Onset	→	Termination
他動性	Agent	→	Patient

・ ex. goで述べられる事象は空間のGoalに、comeで述べられる事象は空間のSourceに視点がある

・ 3つの方向性は空間的なメタファー関係にある (localist metaphor, Croft 2001)

36

DeLancey 1982



完了時制は時間的な終点に視点を持つため、他動性の終点に視点を持つ事象とメタファー的に喚起すると捉えられる。逆も同様。

37

質疑応答(一部)

- 分裂能格性(例えばヒンディー語は時制による分裂能格性を見せると、通言語的に定性/意志性/有生性等で格表示が変わる言語があるという点は考慮しているか？
 - 本研究ではそれらの点は区別していないため、文脈によっては結果が変わる可能性がある。
- インフォーマントが少ない。

38

報告者の視点から

- 用言基盤体言化(関係節)に関連して、チェコ語口語の斜格名詞句における代名詞残留を紹介

(Naughton, James (2005) *Czech: An essential grammar*. Oxon, New York: Routledge.)

主格

To je ten muž, [co] chodí denně
 DEM COP.3SG.PRS DEM man.SG.NOM what.NOM walk.3SG.PRS everyday
 do našeho parku.]
 into our park.SG.GEN
 'That's that man 'what' comes every day to our park.'
 (フォーマル)
 To je ten muž, [který] chodí denně do našeho parku.]
 REL.M.SG.NOM

39

報告者の視点から

斜格句

To je ten muž, [co] jsme o něm
 DEM COP.3SG.PRS DEM man.SG.NOM what.NOM AUX.1PL about M.3SG.LOC
 včera mluvili].
 yesterday talk.PST.PL
 'That's the man 'what' we were speaking about ['him'] yesterday.'
 (フォーマル)
 To je ten muž, [o kterém] jsme včera mluvili.]
 about REL.M.SG.LOC

→口語のみ代名詞残留

40

ご清聴ありがとうございました！

41